

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 白石市立福岡小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒989-0231

宮城県白石市福岡長袋字陣場 1

E-mail info@fukuoka-e.shiroishi-c.ed.jp

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 99 名 女子 104 名 合計 203 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「未来へつながる防災教育」を活動テーマとして、ESD を防災教育の位置の手段と捕らえ、ESD の実践を通して未来へつなげる防災・減災の力の育成を目標とした。

具体的には、本校で東日本大震災以降続けられてきた「被災地訪問交流学习」を中心に、主に総合的な学習の時間を利用して進められてきた。

### ○「被災地訪問交流学习」に係る取組

内陸部に位置し、津波の被害のなかった本校では、震災があった 2011 年の秋から、5 年生において「被災地訪問交流学习」という活動を行っている。はじめは、被害の様子や復興の様子を実際に見て、調べて、自分にできることを考えることなどが活動の中心となった。今年度で 7 年目となったが、近年では、現地を訪問し、当時の状況を知るだけでなく、「自分の命を守る」など、防災意識を高めること、また、「どうしたら減災できるのか」という視点で活

動している。さらに、同じ中学校区の小学校と合同で被災地を訪問し、小・小の交流の機会としても意義のある活動となっている。

基本的な学習の流れとしては、震災時の状況や地震等基本的なことを調べる活動から始まり被災地訪問に臨む。訪問の中で避難について学び、「自分の命をいかに守るか」という視点を与え、その後の調べ学習につないだ。学校で自分たちの学びをまとめ、「3. 1 1みやぎ鎮魂の日」の全校集会で、全校児童に発信した。



左上の写真 被災地訪問学習

右上の写真 5年生の発表

左下の写真 全校集会の様子

右下の写真 訪問先の旧中浜小学校

旧中浜小学校校長の井上先生の案内で、震災遺構となる旧中浜小学校にて、震災当時の様子（津波に襲われたときや避難の様子等）についてお話を聞きながら案内いただいた。5年生は、自分たちが見て、聞いて、調べて、感じたこと、考えたことを全校集会で発表という形で発信した。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特に行っておりません。
-------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールを意識して活動をしているものの、ユネスコスクール自体の活動計画自体は作成していないのが現状である。今後、整備していきたい。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

職員全体で共通理解を図りながら取り組むというところまではいっておらず、関係の学年での取組となりがちである。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動の評価については、あくまで領域としての評価であった。ESDとして行うのであれば、その観点からの評価もしっかり行い、改善していかなければならないのが、今後の課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

特に行っておりません。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

特に行っておりません。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

特に行っておりません。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

主な内容は報告の通りです。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

本校においては、本活動についての理解度に差があるのが事実である。ユネスコスクール（ESD）について職員全体で研修を行い、理解を深め、共通理解を図る。さらに、活動内容等について検討し、取組の幅を広げていくとともに、その評価方法等についても整備していく。本報告のほかにも持続可能な社会を担う子どもたちの育成のために、可能性を見出し、取り組んでいけるよう努めていきたい。